

2015 年度大学入試センター試験 解説 〈数学ⅡB〉

第 1 問

[1] (1) 2 点間の距離の公式から,

$$\begin{aligned} OP &= \sqrt{(2 \cos \theta)^2 + (2 \sin \theta)^2} \\ &= \sqrt{4(\cos^2 \theta + \sin^2 \theta)} = \sqrt{4 \times 1} = \underline{\underline{2}} \end{aligned} \quad \dots\dots \text{ア}$$

$$\begin{aligned} PQ &= \sqrt{\{(2 \cos \theta + \cos 7\theta) - 2 \cos \theta\}^2 + \{(2 \sin \theta + \sin 7\theta) - 2 \sin \theta\}^2} \\ &= \sqrt{\cos^2 7\theta + \sin^2 7\theta} = \underline{\underline{1}} \end{aligned} \quad \dots\dots \text{イ}$$

である。また,

$$\begin{aligned} OQ^2 &= (2 \cos \theta + \cos 7\theta)^2 + (2 \sin \theta + \sin 7\theta)^2 \\ &= 4 \cos^2 \theta + 4 \cos \theta \cos 7\theta + \cos^2 7\theta \\ &\quad + 4 \sin^2 \theta + 4 \sin \theta \sin 7\theta + \sin^2 7\theta \\ &= 4(\cos^2 \theta + \sin^2 \theta) + (\cos^2 7\theta + \sin^2 7\theta) \\ &\quad + 4(\cos 7\theta \cos \theta + \sin 7\theta \sin \theta) \\ &= \underline{\underline{5}} + \underline{\underline{4}}(\cos 7\theta \cos \theta + \sin 7\theta \sin \theta) \quad \dots\dots \text{ウ, エ} \\ &= 5 + 4 \cos(7\theta - \theta) \quad (\text{加法定理を用いて}) \\ &= 5 + 4 \cos \underline{\underline{6\theta}} \quad \dots\dots \text{オ} \end{aligned} \quad \text{①}$$

ここで,

$$\frac{\pi}{8} \leq \theta \leq \frac{\pi}{4} \quad \dots\dots \text{②}$$

より,

$$\frac{3}{4}\pi \leq 6\theta \leq \frac{3}{2}\pi \quad \dots\dots \text{③}$$

であるから,

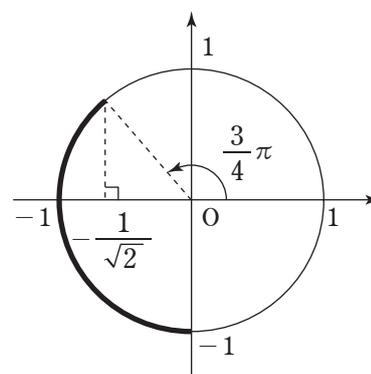
$$\begin{aligned} \cos \pi &\leq \cos 6\theta \leq \cos \frac{3}{2}\pi \\ -1 &\leq \cos 6\theta \leq 0 \end{aligned}$$

ゆえに, ①は $\cos 6\theta = 0$ つまり, $\theta = \frac{\pi}{4}$ のとき最大となる。

よって, ②より, OQ は $\theta = \frac{\pi}{4}$ のとき, ……カ

$$\text{最大値 } \sqrt{5 + 4 \times 0} = \underline{\underline{\sqrt{5}}} \quad \dots\dots \text{キ}$$

をとる。



(2) ②において、 $\cos \theta \neq 0$ であるから、 $P(2 \cos \theta, 2 \sin \theta)$ より、
直線 OP を表す方程式は

$$y = \frac{2 \sin \theta}{2 \cos \theta} x = \frac{\sin \theta}{\cos \theta} x$$

すなわち、

$$(\sin \theta) x - (\cos \theta) y = 0 \quad \dots\dots④ \quad (\dots\dots③) \quad \dots\dotsク$$

3 点 O, P, Q が一直線上にあるのは、 Q が直線 OP 上の点のときであるから、
④より、

$$\begin{aligned} (\sin \theta)(2 \cos \theta + \cos 7\theta) - (\cos \theta)(2 \sin \theta + \sin 7\theta) &= 0 \\ \sin \theta \cos 7\theta - \cos \theta \sin 7\theta &= 0 \\ \sin 7\theta \cos \theta - \sin \theta \cos 7\theta &= 0 \\ \sin(7\theta - \theta) = 0 \quad \text{より、} \quad \sin 6\theta &= 0 \end{aligned}$$

③より、これを満たす θ は

$$6\theta = \pi$$

つまり、

$$\theta = \frac{\pi}{6}$$

このことにより、②の範囲で、3 点 O, P, Q が一直線上にあるのは、

$$\theta = \frac{\pi}{6} \quad \text{のときである。} \quad \dots\dotsケ$$

(3) $\angle OQP$ が直角となるのは、 $\triangle OPQ$ が
直角三角形であることおよび、(1) から、

$$OP = 2, \quad PQ = 1$$

に着目すると、 $OQ = \sqrt{3}$ のとき、 $\dots\dotsコ$

このとき、①より、

$$(\sqrt{3})^2 = 5 + 4 \cos 6\theta$$

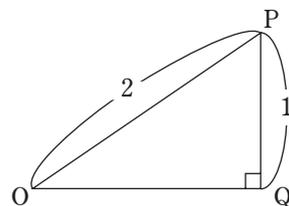
$$\cos 6\theta = -\frac{1}{2}$$

③に注意すると、②の範囲でこれを満たす θ は、

$$6\theta = \frac{4}{3}\pi \quad \text{つまり、} \quad \theta = \frac{2}{9}\pi$$

であるから、 $\angle OQP = 90^\circ$ となるのは

$$\theta = \frac{2}{9}\pi \quad \text{のときである。} \quad \dots\dotsサ, シ$$



[2] (1) (*) より

$$x\sqrt{y^3} = a \text{ から, } (x\sqrt{y^3})^2 = a^2$$

$$\text{よって, } x^2y^3 = a^2 \text{ ……①}$$

$$\sqrt[3]{xy} = b \text{ から, } (\sqrt[3]{xy})^3 = b^3$$

$$\text{よって, } xy^3 = b^3 \text{ ……②}$$

① ÷ ② より,

$$\frac{x^2y^3}{xy^3} = \frac{a^2}{b^3} \text{ から, } x = a^2b^{-3} \text{ ……③}$$

……ス, セソ

② より,

$$y^3 = \frac{1}{x}b^3 = x^{-1}b^3$$

であるから, これに③を用いて,

$$y^3 = (a^2b^{-3})^{-1} \times b^3 = a^{-2}b^3 \times b^3 = a^{-2}b^6$$

よって,

$$y = (a^{-2}b^6)^{\frac{1}{3}} = a^{-\frac{2}{3}}b^2 \text{ ……④}$$

これより, $p = \frac{-2}{3}$ とおくと,

……チツ, テ

$$y = a^p b^q$$

……タ

となる。

$$(2) \quad b = 2\sqrt[3]{a^4} \text{ つまり, } b = 2a^{\frac{4}{3}} \text{ ……⑤}$$

とするとき, (*) を満たす正の実数 x, y が③, ④であるので,

③, ⑤から,

$$x = a^2 \times (2a^{\frac{4}{3}})^{-3} = a^2 \times 2^{-3} \times a^{\frac{4}{3} \times (-3)} = a^2 \times 2^{-3} \times a^{-4}$$

より,

$$x = 2^{-3}a^{-2} \text{ ……⑥}$$

……トナ

④, ⑤から,

$$y = a^{-\frac{2}{3}} \times (2a^{\frac{4}{3}})^2 = a^{-\frac{2}{3}} \times 2^2 \times a^{\frac{4}{3} \times 2} = a^{-\frac{2}{3}} \times 2^2 \times a^{\frac{8}{3}}$$

より,

$$y = 2^2a^2 \text{ ……⑦}$$

……ニ

と表される。

ここで、 $x > 0$, $y > 0$ に対する

$$(\text{相加平均}) = \frac{x+y}{2}, (\text{相乗平均}) = \sqrt{xy}$$

について、

$$\frac{x+y}{2} \geq \sqrt{xy} \quad (\text{等号は } x=y \text{ ……⑧で成立})$$

つまり、

$$x+y \geq 2\sqrt{xy}$$

が成り立つことを利用すると、⑥、⑦を用いて、

$$\begin{aligned} x+y &\geq 2\sqrt{(2^{-3}a^{-2}) \times (2^2a^2)} \\ &= 2\sqrt{2^{-1}} = 2 \times 2^{-\frac{1}{2}} = 2^{\frac{1}{2}} = \sqrt{2} \end{aligned}$$

であり、⑧より、 $x+y = \sqrt{2}$ は、

$$\begin{aligned} 2^{-3}a^{-2} &= 2^2a^2 \\ (a^2)^2 &= 2^{-3} \cdot 2^{-2} \\ a^4 &= 2^{-5} \end{aligned}$$

となる a で成立する。

$$\text{よって、} a > 0 \text{ であるから、} q = \frac{-5}{4} \text{ とおくと、}$$

……ネノ、ハ

$a = 2^q$ のとき、 $x+y$ は最小値 $\sqrt{2}$ をとることがわかる。

……又

第2問

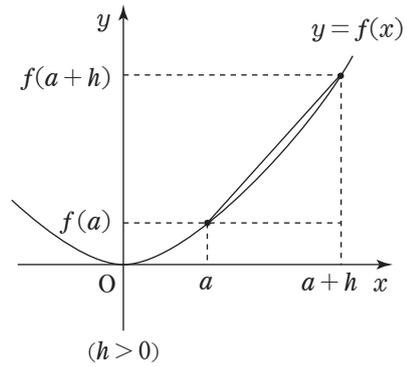
(1) 関数 $f(x) = \frac{1}{2}x^2$ において $h \neq 0$ のとき、

x が a から $a+h$ まで変化するときの $f(x)$ の平均変化率は

$$\frac{f(a+h) - f(a)}{(a+h) - a} = \frac{\frac{1}{2}(a+h)^2 - \frac{1}{2}a^2}{h}$$

$$= \frac{1}{2h}(2ah + h^2) = \underline{\underline{a}} + \underline{\underline{\frac{h}{2}}}$$

……ア, イ



である。

したがって、 $x=a$ における $f(x)$ の微分係数 $f'(a)$ は、

$$f'(a) = \lim_{h \rightarrow 0} \left(\underline{\underline{a}} + \frac{h}{2} \right) = \underline{\underline{a}} \quad \text{……①}$$

……ウ, エ

である。

(2) $C: y = \frac{1}{2}x^2$ 上の点 $P \left(a, \frac{1}{2}a^2 \right)$ における接線 l の傾きは、

$f'(a) = a$ であるから、接線 l の方程式は

$$y = a(x - a) + \frac{1}{2}a^2 \quad \text{より、} \quad y = \underline{\underline{ax}} - \frac{1}{2}a^2 \quad \text{……②}$$

……オ, カ

②と x 軸 (つまり、 $y=0$) との交点 Q の x 座標は、 $ax - \frac{1}{2}a^2 = 0$ より、 $x = \frac{a}{2}$

よって、 $Q \left(\underline{\underline{\frac{a}{2}}}, 0 \right)$ である。

……キ, ク

さらに、点 Q を通り、 l と垂直な直線 m について、①より、

$$(l \text{ の傾き}) \times (m \text{ の傾き}) = -1$$

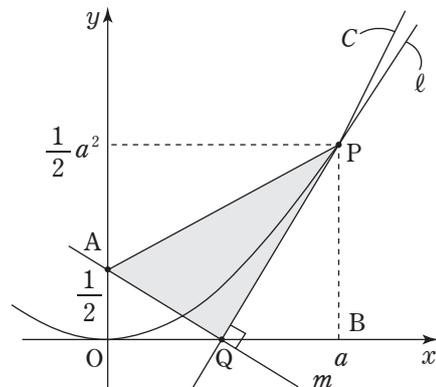
$$a \times (m \text{ の傾き}) = -1$$

$$\text{これより、} m \text{ の傾きは } -\frac{1}{a}$$

であるから、 m の方程式は、

$$y = -\frac{1}{a} \left(x - \frac{a}{2} \right)$$

$$\text{つまり、} \underline{\underline{y = -\frac{1}{a}x + \frac{1}{2}}} \quad \text{……ケ～ス}$$



ここで、点 P から x 軸に垂直に下ろした点 $(a, 0)$ を点 B とする。 m と y 軸の交点 A と点 B について、

△APQ の面積 S は、

$$S = (\text{四角形 OBPA}) - \triangle \text{AOQ} - \triangle \text{BPQ} \quad \dots\dots \textcircled{3}$$

また、

$$(\text{四角形 OBPA}) = \frac{1}{2} \times \left(\frac{1}{2}a^2 + \frac{1}{2} \right) \times a = \frac{a}{4}(a^2 + 1) \quad \dots\dots \textcircled{4}$$

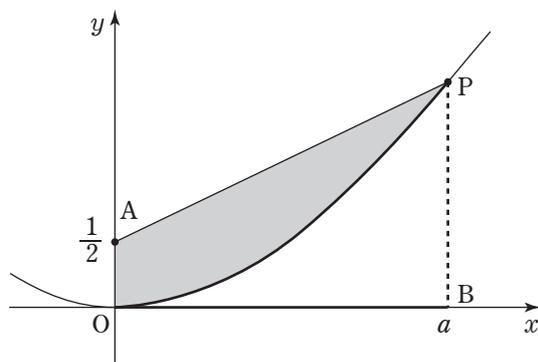
$$\triangle \text{AOQ} = \frac{1}{2} \times \frac{a}{2} \times \frac{1}{2} = \frac{a}{8}$$

$$\triangle \text{BPQ} = \frac{1}{2} \times \left(a - \frac{a}{2} \right) \times \frac{1}{2}a^2 = \frac{a^3}{8}$$

これらと③から、

$$\begin{aligned} S &= \frac{a}{4}(a^2 + 1) - \frac{a}{8} - \frac{a^3}{8} = \frac{a}{4}(a^2 + 1) - \frac{a}{8}(a^2 + 1) \\ &= \frac{a(a^2 + 1)}{8} \quad \dots\dots \textcircled{5} \end{aligned}$$

……セ, ソ



また、面積 T は上図の網目部分であり、 x 軸と線分 BP および曲線 C によって囲まれた図形の面積を U とおくと、

$$T = \textcircled{4} - U \quad \dots\dots \textcircled{6}$$

これと、

$$U = \int_0^a \frac{1}{2}x^2 dx = \left[\frac{1}{2} \times \frac{1}{3}x^3 \right]_0^a = \frac{a^3}{6}$$

より、

$$T = \frac{a}{4}(a^2 + 1) - \frac{a^3}{6} = \frac{a(a^2 + 3)}{12} \quad \dots\dots \textcircled{7}$$

……タ, チツ

となる。

$$\begin{aligned} S - T &= \frac{a(a^2 + 1)}{8} - \frac{a(a^2 + 3)}{12} \\ &= a \times \frac{3(a^2 + 1) - 2(a^2 + 3)}{24} \\ &= \frac{a(a^2 - 3)}{24} \end{aligned}$$

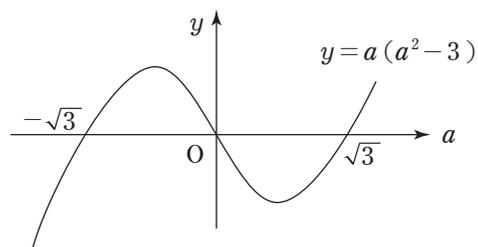
……テ, トナ

であるから、 $S - T > 0$ となる a のとり得る値の範囲は

$$a(a^2 - 3) > 0 \quad \text{と} \quad a > 0 \quad \text{より,}$$

$$a^2 > 3$$

よって、 $a > \underline{\underline{\sqrt{3}}}$ ……ニ



また、 $a > 0$ のとき、 $S - T$ の値を $g(a)$ とおくと、

$$g(a) = \frac{a^3 - 3a}{24}$$

$$g'(a) = \frac{1}{8}a^2 - \frac{1}{8} = \frac{1}{8}(a^2 - 1)$$

であるから、 $a > 0$ における $g(a)$ の増減表は以下のようになる。

a	(0)	\cdots	1	\cdots
$g'(a)$		$-$		$+$
$g(a)$	0	\searrow	$g(1)$	\nearrow

ゆえに、 $g(a)$ は $a = 1$ で、

$$\text{極小値 } g(1) = \frac{1^3 - 3 \times 1}{24} = -\frac{1}{12} \quad \text{をとる。}$$

よって、 $S - T$ は $a > 0$ で $a = \underline{\underline{1}}$ のとき最小値 $\underline{\underline{-\frac{1}{12}}}$ をとる。 ……ヌ～ヒ

第3問

(1) 2^n の値は $n = 1, 2, 3, 4, 5$ に対して、順に

$$2, 2^2 = 4, 2^3 = 8, 2^4 = 16, 2^5 = 32$$

となることから、 a_n の値は、

$$a_1 = 2, a_2 = \underline{4}, a_3 = \underline{8}, a_4 = \underline{6}, a_5 = \underline{2} \quad \dots\dots \text{ア} \sim \text{エ}$$

ここで、

$$2^{n+1} = 2 \cdot 2^n$$

であるから、 2^{n+1} の一の位の数は 2^n の一の位の数を 2 倍した数の一の位の数として定まる。

よって、 2^n の一の位の数は

$$2, 4, 8, 6, 2, 4, 8, 6, 2, \dots\dots$$

となり、2, 4, 8, 6 の順にくり返すから

$$a_{n+4} = a_n$$

$$\begin{array}{c} \uparrow \\ (\dots\dots \text{オ}) \end{array}$$

……オ

が成り立つ。

(2) ①をくり返し用いることで、

$$\begin{aligned} b_{n+4} &= \frac{a_{n+3} b_{n+3}}{4} \\ &= \frac{a_{n+3}}{4} \times \left(\frac{a_{n+2} b_{n+2}}{4} \right) = \frac{a_{n+3} a_{n+2}}{4^2} b_{n+2} \\ &= \frac{a_{n+3} a_{n+2}}{4^2} \times \left(\frac{a_{n+1} b_{n+1}}{4} \right) = \frac{a_{n+3} a_{n+2} a_{n+1}}{4^3} b_{n+1} \\ &= \frac{a_{n+3} a_{n+2} a_{n+1}}{4^3} \times \left(\frac{a_n b_n}{4} \right) = \frac{a_{n+3} a_{n+2} a_{n+1} a_n}{4^4} b_n \end{aligned}$$

よって、すべての自然数 n に対して、

$$b_{n+4} = \frac{a_{n+3} a_{n+2} a_{n+1} a_n}{2^8} b_n \quad \dots\dots \text{カ} \quad \text{……カ}$$

が成り立つことがわかる。

ここで、(1) から、 $a_n, a_{n+1}, a_{n+2}, a_{n+3}$ は 2, 4, 8, 6 が循環した数列の連続した 4 数より、

$$\begin{aligned} a_{n+3} a_{n+2} a_{n+1} a_n &= 2 \times 4 \times 8 \times 6 = 2^1 \times 2^2 \times 2^3 \times (2^1 \times 3) \\ &= 2^{1+2+3+1} \times 3 = 3 \cdot 2^7 \end{aligned} \quad \dots\dots \text{キ}$$

であり、これを②に用いると、

$$b_{n+4} = \frac{3 \times 2^7}{2^8} b_n \quad \text{つまり、} \quad b_{n+4} = \frac{3}{2} b_n \quad \dots\dots \text{ク} \quad \text{……ク, ケ}$$

が成り立つ。

③を用いると,

$$\begin{aligned}
 b_{4k-3} &= \frac{3}{2} b_{(4k-3)-4} = \frac{3}{2} b_{4(k-1)-3} = \left(\frac{3}{2}\right)^2 b_{4(k-2)-3} = \dots \\
 &= \left(\frac{3}{2}\right)^{k-1} b_{4\{k-(k-1)\}-3} = \left(\frac{3}{2}\right)^{k-1} b_1 = \left(\frac{3}{2}\right)^{k-1} \quad \dots\dots\text{コ, サ} \\
 b_{4k-2} &= \frac{3}{2} b_{(4k-2)-4} = \frac{3}{2} b_{4(k-1)-2} = \left(\frac{3}{2}\right)^2 b_{4(k-2)-2} = \dots \\
 &= \left(\frac{3}{2}\right)^{k-1} b_{4\{k-(k-1)\}-2} = \left(\frac{3}{2}\right)^{k-1} b_2
 \end{aligned}$$

これと $b_2 = \frac{a_1 b_1}{4} = \frac{2 \times 1}{4} = \frac{1}{2}$ より,

$$\begin{aligned}
 b_{4k-2} &= \frac{1}{2} \left(\frac{3}{2}\right)^{k-1} \quad \dots\dots\text{シ, ス} \\
 b_{4k-1} &= \frac{3}{2} b_{(4k-1)-4} = \frac{3}{2} b_{4(k-1)-1} = \left(\frac{3}{2}\right)^2 b_{4(k-2)-1} = \dots \\
 &= \left(\frac{3}{2}\right)^{k-1} b_{4\{k-(k-1)\}-1} = \left(\frac{3}{2}\right)^{k-1} b_3
 \end{aligned}$$

これと $b_3 = \frac{a_2 b_2}{4} = \frac{4 \times \frac{1}{2}}{4} = \frac{1}{2}$ より,

$$\begin{aligned}
 b_{4k-1} &= \frac{1}{2} \left(\frac{3}{2}\right)^{k-1} \quad \dots\dots\text{セ, ソ} \\
 b_{4k} &= \frac{3}{2} b_{4k-4} = \frac{3}{2} b_{4(k-1)} = \left(\frac{3}{2}\right)^2 b_{4(k-2)} = \dots \\
 &= \left(\frac{3}{2}\right)^{k-1} b_{4\{k-(k-1)\}} \\
 &= \left(\frac{3}{2}\right)^{k-1} b_4
 \end{aligned}$$

これと $b_4 = \frac{a_3 b_3}{4} = \frac{8 \times \frac{1}{2}}{4} = 1$ より,

$$b_{4k} = \left(\frac{3}{2}\right)^{k-1}$$

とわかる。

(3) $S_n = \sum_{j=1}^n b_j$ より, 自然数 m に対して,

$$S_{4m} = (b_1 + b_2 + b_3 + b_4) + (b_5 + b_6 + b_7 + b_8) \\ + \cdots + (b_{4m-3} + b_{4m-2} + b_{4m-1} + b_{4m}) \quad \cdots \textcircled{4}$$

ここで, (2) より,

$$b_{4k-3} + b_{4k-2} + b_{4k-1} + b_{4k} \\ = \left(\frac{3}{2}\right)^{k-1} + \frac{1}{2}\left(\frac{3}{2}\right)^{k-1} + \frac{1}{2}\left(\frac{3}{2}\right)^{k-1} + \left(\frac{3}{2}\right)^{k-1} = 3\left(\frac{3}{2}\right)^{k-1}$$

であり, ④はこの式で $k=1, 2, \dots, m$ としたものの総和であるから,

$$S_{4m} = \sum_{k=1}^m 3\left(\frac{3}{2}\right)^{k-1} = 3 \times \frac{\left(\frac{3}{2}\right)^m - 1}{\frac{3}{2} - 1} = 6 \left\{ \left(\frac{3}{2}\right)^m - 1 \right\}$$

よって,

$$S_{4m} = \underline{\underline{6}} \left(\frac{3}{2}\right)^m - \underline{\underline{6}} \quad \cdots \text{タ, チ}$$

である。

(4) (2) から,

$$b_{4k-3} b_{4k-2} b_{4k-1} b_{4k} = \left(\frac{3}{2}\right)^{k-1} \times \frac{1}{2}\left(\frac{3}{2}\right)^{k-1} \times \frac{1}{2}\left(\frac{3}{2}\right)^{k-1} \times \left(\frac{3}{2}\right)^{k-1} \\ = \frac{1}{4} \left(\frac{3}{2}\right)^{4(k-1)} \quad \cdots \textcircled{5} \quad \cdots \text{ツ, テ}$$

であることと, (3) と同様にして,

$$T_{4m} = (b_1 b_2 b_3 b_4) \times (b_5 b_6 b_7 b_8) \times \cdots \times (b_{4m-3} b_{4m-2} b_{4m-1} b_{4m})$$

が⑤の式で $k=1, 2, \dots, m$ としたもののすべての積であることから,

$$T_{4m} = \left\{ \frac{1}{4} \left(\frac{3}{2}\right)^{4(1-1)} \right\} \times \left\{ \frac{1}{4} \left(\frac{3}{2}\right)^{4(2-1)} \right\} \times \left\{ \frac{1}{4} \left(\frac{3}{2}\right)^{4(3-1)} \right\} \\ \times \cdots \times \left\{ \frac{1}{4} \left(\frac{3}{2}\right)^{4(m-1)} \right\} \\ = \frac{1}{4^m} \left(\frac{3}{2}\right)^{4\{0+1+2+\cdots+(m-1)\}} \quad \cdots \textcircled{6}$$

ここで,

$$0+1+2+\cdots+(m-1) = \frac{m(m-1)}{2}$$

より, ⑥から,

$$T_{4m} = \frac{1}{4^m} \left(\frac{3}{2}\right)^{4 \times \frac{m(m-1)}{2}} = \frac{1}{4^m} \left(\frac{3}{2}\right)^{\underline{\underline{2m^2 - 2m}}} \quad \cdots \text{ト, ナ}$$

である。

ここで,

$$T_{10} = T_8 b_9 b_{10} \dots\dots\dots \textcircled{7}$$

に注意すると,

$$T_8 = T_{4 \times 2} = \frac{1}{4^2} \left(\frac{3}{2} \right)^{2 \cdot 2^2 - 2 \cdot 2} = \frac{1}{2^4} \left(\frac{3}{2} \right)^4 = \frac{3^4}{2^8}$$

また, (2) より,

$$b_9 = b_{4 \times 3 - 3} = \left(\frac{3}{2} \right)^{3-1} = \frac{3^2}{2^2}$$

$$b_{10} = b_{4 \times 3 - 2} = \frac{1}{2} \left(\frac{3}{2} \right)^{3-1} = \frac{3^2}{2^3}$$

であるから, ⑦より

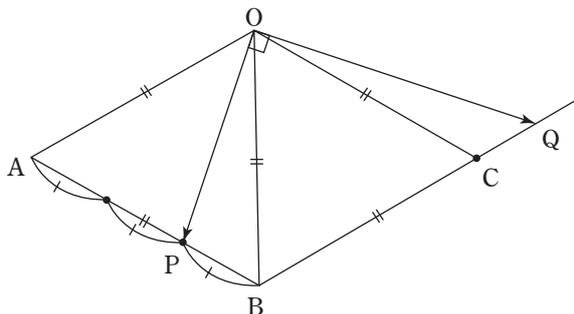
$$T_{10} = \frac{3^4}{2^8} \times \frac{3^2}{2^2} \times \frac{3^2}{2^3} = \frac{3^8}{2^{13}} \dots\dots\dots \text{二, 又, ネ}$$

である。

(注) 本問の【オ】の解説では③を正解としていますが, 大学入試センターより実施2日後に(1)を独立した問題と考えると⑩も当てはまることから, ⑩も正解とすると解答訂正の発表がありました。

第 4 問

(1)



P は線分 AB を $AP : PB = 2 : 1$ に内分する点より、

$$\vec{OP} = \frac{\vec{a} + 2\vec{b}}{2+1} = \frac{1}{3}\vec{a} + \frac{2}{3}\vec{b} \quad \dots\dots①$$

……ア, イ, ウ

また, t を実数とすると、

$$\begin{aligned} \vec{OQ} &= (1-t)\vec{OB} + t\vec{OC} \\ &= \vec{OB} + t(\vec{OC} - \vec{OB}) \\ &= \vec{OB} + t\vec{BC} \end{aligned}$$

であり, $\vec{BC} = -\vec{a}$ と合わせて、

$$\vec{OQ} = \vec{b} + t \times (-\vec{a}) = -t\vec{a} + \vec{b} \quad \dots\dots②$$

……エ

ここで, \vec{a} と \vec{b} のなす角は 60° であり, $|\vec{a}| = |\vec{b}| = 1$

……③

$$\begin{aligned} \vec{a} \cdot \vec{b} &= |\vec{a}| |\vec{b}| \cos 60^\circ \\ &= 1 \times 1 \times \frac{1}{2} \\ &= \frac{1}{2} \quad \dots\dots④ \end{aligned}$$

……オ, カ

また, $\vec{OP} \perp \vec{OQ}$ により、

$$\vec{OP} \cdot \vec{OQ} = 0$$

……キ

であることから, ①, ②より、

$$\begin{aligned} \left(\frac{1}{3}\vec{a} + \frac{2}{3}\vec{b}\right) \cdot (-t\vec{a} + \vec{b}) &= 0 \\ (\vec{a} + 2\vec{b}) \cdot (-t\vec{a} + \vec{b}) &= 0 \\ -t|\vec{a}|^2 - 2t\vec{a} \cdot \vec{b} + \vec{a} \cdot \vec{b} + 2|\vec{b}|^2 &= 0 \end{aligned}$$

③, ④を用いて,

$$-t \times 1^2 - 2t \times \frac{1}{2} + \frac{1}{2} + 2 \times 1^2 = 0$$

よって,

$$2t = \frac{5}{2} \text{ より, } t = \underline{\underline{\frac{5}{4}}} \quad \dots\dots\text{ク, ケ}$$

これらのことから,

$$\begin{aligned} |\vec{OP}|^2 &= \left(\frac{1}{3} \vec{a} + \frac{2}{3} \vec{b} \right) \cdot \left(\frac{1}{3} \vec{a} + \frac{2}{3} \vec{b} \right) \\ &= \frac{1}{9} (\vec{a} + 2\vec{b}) \cdot (\vec{a} + 2\vec{b}) \\ &= \frac{1}{9} (|\vec{a}|^2 + 4\vec{a} \cdot \vec{b} + 4|\vec{b}|^2) \\ &= \frac{1}{9} \left(1^2 + 4 \times \frac{1}{2} + 4 \times 1^2 \right) = \frac{7}{9} \end{aligned}$$

よって,

$$|\vec{OP}| = \underline{\underline{\frac{\sqrt{7}}{3}}} \quad \dots\dots\text{コ, サ}$$

また, $t = \frac{5}{4}$ より, $\vec{OQ} = -\frac{5}{4}\vec{a} + \vec{b}$ ……⑤であるから,

$$\begin{aligned} |\vec{OQ}|^2 &= \left(-\frac{5}{4} \vec{a} + \vec{b} \right) \cdot \left(-\frac{5}{4} \vec{a} + \vec{b} \right) \\ &= \frac{1}{16} (5\vec{a} - 4\vec{b}) \cdot (5\vec{a} - 4\vec{b}) \\ &= \frac{1}{16} (25|\vec{a}|^2 - 40\vec{a} \cdot \vec{b} + 16|\vec{b}|^2) \\ &= \frac{1}{16} \left(25 \times 1^2 - 40 \times \frac{1}{2} + 16 \times 1^2 \right) = \frac{21}{16} \end{aligned}$$

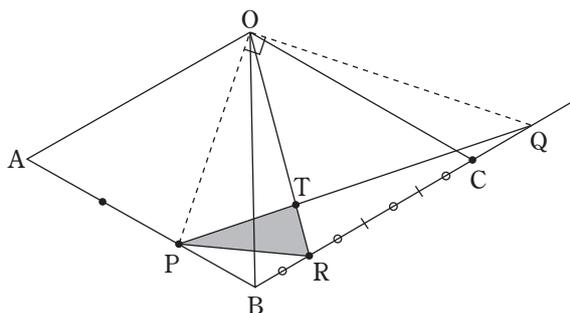
よって,

$$|\vec{OQ}| = \underline{\underline{\frac{\sqrt{21}}{4}}} \quad \dots\dots\text{シス, セ}$$

であるから, $\triangle OPQ$ の面積 S_1 は, $\angle POQ = 90^\circ$ に注意すると,

$$S_1 = \frac{1}{2} |\vec{OP}| |\vec{OQ}| = \frac{1}{2} \times \frac{\sqrt{7}}{3} \times \frac{\sqrt{21}}{4} = \underline{\underline{\frac{7\sqrt{3}}{24}}} \quad \dots\dots\text{ソ\textasciitilde}ツ$$

(2)



点 R は BC を 1 : 3 に内分する点なので,

$$\vec{OR} = \frac{3\vec{OB} + \vec{OC}}{1+3} = \frac{3}{4}\vec{OB} + \frac{1}{4}\vec{OC}$$

ここで,

$$\vec{OC} = \vec{OB} + \vec{BC}$$

$$\vec{BC} = -\vec{a}$$

より,

$$\vec{OC} = \vec{b} + (-\vec{a}) = \vec{b} - \vec{a}$$

であるから,

$$\vec{OR} = \frac{3}{4}\vec{b} + \frac{1}{4}(\vec{b} - \vec{a}) = -\frac{1}{4}\vec{a} + \vec{b} \quad \dots\dots⑥$$

である。

ここで、直線 OR と直線 PQ の交点 T は OR 上の点であるから、⑥より、

$$\begin{aligned} \vec{OT} &= r\vec{OR} \quad (r \text{ は実数}) \\ &= r\left(-\frac{1}{4}\vec{a} + \vec{b}\right) \quad \dots\dots⑦ \\ &= -\frac{r}{4}\vec{a} + r\vec{b} \end{aligned}$$

一方、T が直線 PQ 上の点より、

$$\vec{OT} = (1-s)\vec{OP} + s\vec{OQ}$$

と表されることから、①、⑤より、

$$\begin{aligned} \vec{OT} &= (1-s)\left(\frac{1}{3}\vec{a} + \frac{2}{3}\vec{b}\right) + s\left(-\frac{5}{4}\vec{a} + \vec{b}\right) \\ &= \left(\frac{1}{3} - \frac{19}{12}s\right)\vec{a} + \left(\frac{2}{3} + \frac{1}{3}s\right)\vec{b} \quad \dots\dots⑧ \end{aligned}$$

ここで、 $\vec{a} \neq \vec{0}$ 、 $\vec{b} \neq \vec{0}$ 、 $\vec{a} \neq \vec{b}$ であることから、⑦、⑧において、それぞれの \vec{a} 、 \vec{b} の係数は一致するから、

$$\begin{cases} -\frac{r}{4} = \frac{1}{3} - \frac{19}{12}s \\ r = \frac{2}{3} + \frac{1}{3}s \end{cases}$$

これを解いて、

$$r = \frac{7}{9}, s = \frac{1}{3} \quad \dots\dots \text{テ} \sim \text{ニ}$$

r の値と⑦より、

$$\vec{OT} = \frac{-7}{36}\vec{a} + \frac{7}{9}\vec{b} \quad \dots\dots \text{ヌ} \sim \text{フ}$$

と求まる。

r 、 s の値により、

$$OR : OT = 1 : r = 1 : \frac{7}{9} = 9 : 7$$

つまり、

$$OT : TR = 7 : 2$$

また、

$$PT : TQ = s : (1-s) = \frac{1}{3} : \left(1 - \frac{1}{3}\right) = 1 : 2$$

これらを用いると、

$$\triangle OPT = \frac{1}{3}S_1$$

また、

$$\triangle OPT : S_2 = 7 : 2$$

より、

$$\triangle OPT = \frac{7}{2}S_2$$

よって、

$$\frac{1}{3}S_1 = \frac{7}{2}S_2, \text{ つまり } S_1 = \frac{21}{2}S_2$$

これより、

$$S_1 : S_2 = \frac{21}{2} : 1 = \underline{\underline{21}} : 2 \quad \dots\dots \text{ヘ} \sim \text{ホ}$$

である。

